

グローバル通信

2010.5 vol.17

Ryukoku University
GLOCAL TSUSHIN

花の盛りもいつしかすぎて、青葉若葉のさわやかな季節となりました。3月には本コース生もそれぞれの花を咲かせ、15人のみなさんが立派に旅立って行かれました。入れかわって4月、12名のみなさんが大学院の門を叩き、熱い志をもったみなさんが入学され、本コースにも新しい風が吹き始めております。

今月号はしっかりと研究し修了された方の集大成としての院生シンポジウム、修士論文報告会や、志をもって入学された方の熱意のあるコメントを中心に、本年度も活発に動き出した本コースの様子をお伝えいたします。

本紙は編集部の顔も変わり、今年度も本コースの活動をしっかりとお伝えさせていただきます。よろしくお願いたします。(編集部)

「協働のまちづくり」の課題と「地域公共人材」	1
環境首都コンテストからの地域変革と人材育成	1
修了おめでとう！15名がそれぞれのフィールドへ 入学おめでとう！—新たに12名が大学院の門を叩きました！	2
特集 龍谷大学 茨木市議会と提携！	3
春の合宿 一熱くて楽しい仲間たちとの最後の学習 in ならまち—	3
政策フォーラムでみごと入賞！	3
院生自主シンポジウム 地域社会の未来を拓くフロンティアたち～地域公共人材と職能～	4
修士論文報告会 一研究の成果を披露しました—	4
広原教授お疲れさまでした	4
事務局インフォメーション	4



「協働のまちづくり」の課題と「地域公共人材」

山岡 晶子 (草津市副市長)

草津市では、住みよいまちを築くために、市民と行政の協働を進めながら、市民参画のまちづくりを目指していますが、私は、「協働のまちづくり」を進めていく上で大切なことが二つあると考えています。

その第一は、組織の意思決定などの重要な場面に女性の参画をもっと進めることです。草津市が今般策定した「第3次男女共同参画推進計画」でも、「団体等における方針決定過程への女性の参画の促進」を掲げておりますが、なかなか進まないのが現状です。近所づきあいや子育てなど、女性が地域のコミュニティとかかわる頻度は、男性よりはるかに多いので、情報の感度が良く、その分、地域における生活課題の捉え方は女性の方が多様で鋭いのではないかと思います。そういう意味から、これからの地域づくりにおいては、地域組織での意思決定などの重要な場面に、もっと女性が参画することが必要であると思います。

その第二は、第一線をリタイアしつつある「団塊の世代」の男性が、地域社会にいかに溶け込んで頂けるかということです。今日まで、わが国の発展を支えてきた人達が持つ経験やノウハウの活用のみならず、技術や管理能力にも秀でた人達が、地域組織などに参加すると、非常に大きな力を発揮して頂けるのではないのでしょうか。そして、彼らの参画により、地域組織の構成員の個性がますます多様化し、地域の活性化が進みます。

これらの課題を解決する方策の一つとして、協働型社会づくりにおいて指導的役割を果たす「地域公共人材」が重要であると考えています。したがって、その育成を目的とされる「龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース」には、地域のリーダーを育成する機関として大いに期待しておりますし、是非、学生さんにもインターンシップとして草津市を活用していただきたいと思っております。

最後になりましたが、草津市は、今年度からの10年間、市民の皆さんとともにまちづくりに取り組む指針となる「第5次総合計画」を策定いたしました。私も市民の皆さんと共に、『出会いが織りなすふるさと“元気”と“うるおい”のあるまち 草津』の実現に全力を尽くしたいと考えております。



環境首都コンテストからの地域変革と人材育成

秋本 育生 (特定非営利活動法人環境市民 代表理事)

人類社会は、文明の大きな岐路に立たされています。環境問題、資源問題、南北格差の拡大、宗教・民族の対立、どれをとっても問題は拡大し、解決への明確な歩みは始っていません。国内でも、持続可能な社会のトリプルボトムラインとされる環境、経済、社会のどの要素も明るい未来は見えません。

このような閉塞状況を打ち破り、未来に希望をいざなうことができる社会を築いていくには、アジェンダ21の第28章にもあるように地域社会からの変革が重要かつ不可欠です。NPO法人環境市民では、このような認識のもと多様な活動を戦略的に実施しています。その中心となるのが全国のNGOで実施している「持続可能な地域社会を創る 日本環境首都コンテスト」。

このコンテストの趣旨は、基礎自治体に切磋琢磨を促し、全国の自治体の目標となる地域社会を創造していこうというもの。またその過程において参加された自治体同士及び自治体とNGOの交流と信頼を深め、日本社会への戦略政策提案をなしていこうというものです。

2001年から毎年開催し、今年度まで10回連続で実施をしています。これまでに1回以上参加された自治体は224、これは現在の全国自治体の13%になります。そして開始した2001年度に比べて、参加されている自治体の環境政策、持続可能な社会づくりは大きく進展しています。

また、このコンテストとともに「環境首都をめざす自治体全国フォーラム」や「環境首都コンテスト地域交流会」を毎年実施しています。前者は熱心な市区町村長と私たちNGOとが忌憚のない意見をやりとりし自らの実践に役立て、かつ日本社会への提案をまとめるもの、後者は地域ブロックごとに参加自治体の担当者が集まり先進事例を交流するものです。

このような取り組みの中、地域の公共そして日本社会の公共を担う人材を創りだしていくことの重要性が浮き彫りになってきました。私たちはこれに 대응するため、自治体、NGO、大学のマルチミックスの人材流動化システムを構築中です。

貴「NPO地方行政研究コース」もこの社会を持続可能で豊かなものにしていくことを主体的に担う人を養成される機関として非常に期待しています。

修了おめでとう！ 15名がそれぞれのフィールドへ Congratulations!

入学おめでとう！ —新たに12名が大学院の門を叩きました！

修了生、入学生のみなさんおめでとうございます。今年も本コースで立派に研鑽されたみなさんが各々の活動フィールドへ旅立って行きました。今後のますますのご活躍を期待しております。今年も本コースは多彩な経歴の新入生を迎えることとなりました。今年にはNPOからの入学が多く、多様なセクターの交流はさらに活発となることでしょう。入学生のみなさんの抱負をご紹介します。①入学のきっかけ ②1年間の意気込みとなっております。

かけがえのない宝物を得ました

福留 啓二 (法学研究科修了)

私は、地方自治体の建築技術者であり管理監督職員の業務に就いています。この1年間、このNPO・地方行政研究コースで学ばせて頂いた経験は私の人生でかけがえのない宝物になりました。私が大学院で経験したことは、今後、仕事を行う上で、物事を考える際の視野や視座の設定という点で大いに活かされ、実践力になるものと確信しています。素晴らしい先生方や仲間達に触発され、刺激を受けながら公共分野における多角的な視点からの思考力が身に付き、大変貴重なものであったと感謝しております。私は53才という年齢になって、はじめて自分の人生を振り返り、客観的に時代と行政との関係を観察し研究を深められるようになりました。この1年間で様々な「気づき」と「学び」をいただき、とても有意義な1年間でした。卒業までの道のりは決して楽なものではありませんでしたが、素晴らしい先生方や仲間達の励ましがあって卒業できたものと感謝しております。今後、このコースでスキルアップさせていただいたことを活かせるような「職能人」へと成長していきたいと決意しております。



2 回生で就職、働きながら修論に挑む

橋詰 清一郎 (法学研究科修了)

平成22年3月、龍谷大学大学院のNPO・地方行政コースを修了することができ、とても大きな達成感を得られました。そして、熱意をもった仲間に出会うことができました。私は本コースにおいて、本当に多くの特別な講義や経験をする機会を得ました。1回生時には、各見識者や実務家など10数人にヒアリングを行うと共に、京都府亀岡市にて長期インターンシップに参加しました。また、講義においても、「行政とは」・「まちづくりとは」何かを主眼に様々な理論についても学ぶことができました。2回生時からは芦屋市役所に入庁し、働きながら大学院を続ける形となりました。新人ということもあり必然的に業務中心で、修士論文についてはとても苦しみました。そんな中でも職場の方の温かい支援や担当の土山先生からの優しく適切なご指導をいただき、なんとか論文をまとめることができました。本コース修了をすることができたとはいえ、この2年間は自らの未熟さを痛感する日々でした。ますますの努力と研鑽が必要であり、今後皆様からいただいた知識やつながりをもって、業務の遂行、政策提言などを図っていきたく強く思います。

入学生一覧

河合 良太	法学研究科	草津市役所
岸根 郁郎	法学研究科	京都市下京区役所
芝原 浩美	法学研究科	(特活) きょうとNPOセンター
吉田 照美	経済学研究科	(特活) 働きたいおんなたちのネットワーク
日比野純一	経済学研究科	(特活) たかとりコミュニティセンター
小森美弥子	法学研究科	亀岡市役所
堀 孝弘	法学研究科	(特活) 環境市民

山本 晃	法学研究科	甲賀市役所
村井 繁光	法学研究科	(財)京都市ユースサービス協会
赤田 博幸	法学研究科	学内
増田 貴大	法学研究科	学内
三木 俊和	法学研究科	学内

村井 繁光

- ①青少年の支援から、若者・子どもの参画を主軸に「こどもがつくるまち」というプログラムを通して、まちづくりに与える影響について、研究したい。
- ②この1年を価値のあるものにするべく、なんくるないさーという響きやすこぶる好きな私は、「何かかなる」の精神を遺憾なく発揮したい。

岸根 郁郎

- ①自分の仕事(まちづくり等々)を振り返り、その本質を探りたい。
- ②「大学の勉強」と「仕事」と「自分のライフワーク」が相互に結びついて、パワーアップできる1年にしたい。

芝原 浩美

- ①現場で実践を積み重ねてきたことをレベルアップさせるために、アカデミックな観点での研究が必要だと感じていた。
- ②自分が本当にやっていたらどうかと不安だが、様々な人のお力を貸し借りしながら、充実した一年を過ごしたい。

日比野 純一

- ①市民活動の現場で15年間走り続けてきたが、これまでの活動を論理的にまとめること、今後に向けたビジョンを構築するためにNPO・地方行政研究コースの門を叩いた。
- ②4半世紀ぶりの学生生活を思い多量のものにすべく、立場の異なる様々な方と机を並べて学業に従事できる喜びを大切に、一年間を過ごしたい。

山本 晃

- ①生活環境課廃棄物処理部門の技能職だが、必要な環境関連法と行政法を専門的多角的に研究し、包括的な質の高い住民サービス提供に繋げたい。出身大学だった事もあり、思い切って入学したい。
- ②1年という短い期間をいかに充実させるか、期待と不安が半々ですが前向きな気持ちでチャレンジしていきたい。悔いの残らない充実した院生生活にしたい。

河合 良太

- ①市役所に勤務し始めて自分にしかできない仕事や能力を持ちたいと思ったこと、法律という奥の深い分野に対して自分の知識の浅さを実感したのがきっかけ。
- ②弱者の身なので努力だけでは他の人に負けないようにしたい。市役所の皆様のお力のおかげでいただいているので少しでも多くのものを職場に持って帰りたい。

吉田 照美

- ①起業相談や地域活動の相談を、NPO法人「働きたい女たちのネットワーク」吉田秀子氏が担当しておられ、大学院進学も視野にいれていると相談し推薦いただき受験した。
- ②「認知症友の会」活動をし、現場の現状を発信する事や対策となる場所づくりをする事など、認知症の方の暮らしやすさと、家族の現状の困難さの解消に向けて、研究していきたい。

堀 孝弘

- ①2年前にもNPO・地方行政コースへの入学準備を進めたが、諸般の事情で断念した。ようやく「時が来た」ということだと思う。
- ②わかっていたことですが、公私とも忙しくバタバタしている。しかし、そんなことも言っていられない。がんばるしかない。

小森 美弥子

- ①地方自治体職員として地方自治・地方分権について見識・知識を深めるため。
- ②様々なフィールドで御活躍されている方々との議論を通して、地方分権時代における自分の立ち位置を明確にしたい。

赤田 博幸

- ①富野先生から早期履修制度を紹介されたのがきっかけ。これからの地方自治の可能性に魅力を感じ、もっと勉強してみたいと考えて大学院の門を叩いた。
- ②早期履修制度での貴重な経験を活かし、社会に出て恥ずかしくないぐらいの知識・態度・技能を身につけていきたい。

増田 貴大

- ①学部から進学し、学部で勉強してきたことを深めていきたい。
- ②わからないことが多く戸惑うとは思いますが、悔いの残らないよう邁進していきたい。

三木 俊和

- ①早期履修制度を活用し、昨年より大学院を体験した。これからの地域のビジョンをより自分の中で鮮明にしたいと思い、大学院に進んだ。
- ②しっかりと自分の中に学問の柱を作りながら大学院での皆様との学びを全て吸収し、自分自身が地域に活かすヒントを見つけた。



修了生のみなさん、そして入学生のみなさんへ

松島 泰勝 (経済学部教授)

入学、修了おめでとうございます。修了生は、それぞれの仕事を終えての授業や週末の授業、調査旅行、発表会等、かなりハードな一年であったかと思いますが、しかしその中で異なる分野の方々との出会い、議論、情報交換、ネットワークの形成等、自らの人生においても得がたい経験をしたのではないのでしょうか。自らの職場、家庭、地域活動、ボランティア等において直面している諸問題について、教員、学生、NPOや地方行政のリーダーとの意見交換、議論を通じて、自らの頭で考え、問題の本質を明らかにし、問題解決のための提言を行うという研究のスタイルを身につけることが可能になったと考えます。今後はここで学んだことを社会、地域のために活かして、自らの可能性をさらに発揮してください。今年、本コースに入学された方は現在、希望に燃えるとともに、1年間で修士論文、課題研究が書けるのかと不安な気持ちもあるかと思いますが、授業に出席するだけでなく、質問や反論を遠慮なく教員に行ってください。そして勉学の仲間と切磋琢磨して充実した1年を過ごして下さい。

特集

龍谷大学 茨木市議会と提携！

桂 睦子 (茨木市議会議員)

2000年4月の地方分権一括法施行から10年を迎えました。現実には国と地方の財源配分など、未整理の部分・困難な条件を含めたとしても、新地方自治法第2条に書かれている地方自治の本旨を尊重し、地方政府へと舵を切りだした自治体が現在、どれくらいあるのでしょうか。そして、それは地方議会もまた然りです。

私たち茨木市議会は、自治体の自立と自主性が問われる中で地方議会の役割と責任が拡大していることから、政策立案機能の強化・充実に模索するとともに、昨今の厳しい財政状況の中においても多様化する市民ニーズとどのように向き合い、議会で合意を形成し、市民とともに歩む議会となりえるのか議論を続けてきました。

このような中で今回、龍谷大学と地域連携協定を結べたことにより、日本の地方議会が政党や会派や出身グループによる討議民主主義型議会から、市民をも巻き込んだ熟議民主主義型議会への移行を目指す大きな実験の道程とともに歩んでいただけることを願っています。



調印式が終わって固く握手
左：若原道昭学長・右：茨木市議会辰見登議長(当時)

土山 希美枝 (法学部准教授)

茨城市議会と「地域連携協定」を締結しました。これまで、地域政策の主体であるさまざまな団体と締結を進めてきましたが、自治体議会との締結は初めてとなります。

こうした包括的で互恵的な連携協定の締結は全国でも珍しく、提携にご尽力いただいた茨城市議会と事務局の皆様へ厚く御礼申し上げます。

連携は使われることで生きてきます。いま、分権が進む地方自治のなかで重要な役割を持ち、いまさまざまな変革をみせている自治体の議会との連携によって、相互の資源が活かされ、学びのフィールドとなったり、あるいはその成果を還元したり、新しい取り組みができることとわくわくしています。

茨木市議会インターンシップを経験して

朝倉 健太 (法学研究科修了)

大学院で地方議会を研究している私にとって、今回の協定、そしてインターンシップは今後の研究において、非常に有用な経験となりました。というのも研究では文献等を読むことが中心であり、研究中に現場性という点が欠けていることに苦労したからです。実際に議会の現場をみることで、自分の研究により厚みをもたせることには違いありませんが、それ以上に今回のインターンシップでは得るものが大きかったと思います。

議会制度は今後、大きく変化する兆しにあります。全国では議会機能の強化に向けて議論が進んでいます。今回の協定が全国的に広がる議会改革の一助になることを期待したいと思います。

春の合宿 —熱くて楽しい仲間たちとの最後の学習 in ならまち—

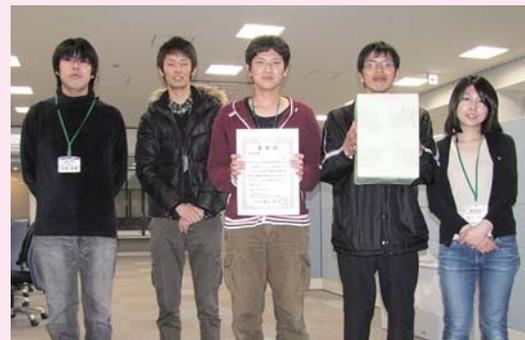
3月20日の学位授与式終了後、平城京遷都1300年祭を間近に控える奈良市にて、コース生有志で春合宿を行いました。「ならまち」を訪ね、現場でまちづくりに携わっておられる方々の貴重なお話を伺いながら、まちづくりについて考えました。なかでも、26歳の若さで株式会社地域活性局の代表を務め、奈良町情報館を運営されている藤丸さんのお話は印象的でした。奈良市中心部の歴史的な文化遺産と吉野地方の食文化や自然素材を集約することによって、お互いの魅力を高めあ

い、新たな客層を呼び込むことを実践されている姿には感銘を受けました。また、合宿の晩に、富野先生と大矢野先生を交え、授業しながらに宿泊者みんなで夜中2時頃まで熱く語り合ったことは、このコースならではの思い出となりました。(法学研究科修了 坂居 雅史)



奈良町情報館で藤丸さん(右奥)から説明を受けている様子

政策フォーラムでみごと入賞！



全国の大学生・大学院生がまちづくりへの政策提案をおこなう「第4回全国大学まちづくり政策フォーラム in 京田辺」が3月11日から13日にかけて、京田辺市の同志社大学京田辺キャンパスで開催され、法学部と大学院が共同で開講している「地域研究発展演習」のメンバーが、みごと特別賞(参加15チーム中3位の成績)を受賞しました。

発表テーマは「協働型社会を基盤とした自治体運営—フルコスト把握による情報共有と議論の場づくり—」として、全国の地方自治体が財政難を迎えており、限られた財源を有効に配分する仕組みとして、「情報の共有」と「議論の場」をキーワードにした発表でした。

前日には徹夜で準備を行い、院生と学部生と一緒に活動することで刺激しあう濃密な発展演習での学びが受賞につながったとの事で、今後も院生と学部生が一体となった活躍を期待したいと思います。(編集部)

NEWS!

院生自主シンポジウム

地域社会の未来を拓くフロンティアたち～地域公共人材と職能～

櫻井 あかね (2007年度修了生)

2010年2月27日(土)、院生による自主シンポジウム「地域社会の未来を拓くフロンティアたち～地域公共人材と職能～」が開催されました。この企画は2006年度から始まったもので、院生たちが行なう最後の課題でもあります。

当日は、学部生、コース修了生、一般の参加者が集まって熱い議論が交わされました。はじめに白石教授から「なぜ、いま地域公共人材なのか」と題して講演があり、NPO・地方行政研究コースの意義と、セクターの壁を越えて地域の課題解決に取り組む人材の重要性が話されました。後半のシンポジウムでは現役の院生らが壇上に上がり、「地域公共人材と職能」をテーマに自己の経験と照らし合わせながら、地域公共人材とは何かを探りました。

NPO・地方行政コースの開設から7年が経ち、修了生の層は年々厚くなっています。大学院で身につけた視点を実務の場でどう活かすか、各地で活躍する修了生の取り組みを共有したら、知恵の集積も厚くなるのではないかと思います。

市川 岳仁 (法学研究科修了)

おおよそ院生生活最後のイベントということで、否が応にも自主シンポジウムは盛り上がったように思う。皆の意気込みをジーンと感じた。このシンポジウムにあたり、惜越にもコーディネータを仰せつかった私は、多くの院生仲間を支えられた。今年修了するすべてのコース生が主張を書いて送ってくれたし、当日参加できない仲間も、準備にあたっては夜遅くまで議論した。シンポジストに選ばれた仲間とは「一度きりの臨場感溢れるライブリハーサル?」も体験した。そして、私自身の役割は出来るだけ多くの考えを拾い会場に紹介することだったように思う。残念ながら院生すべての意見を紹介することはできなかったが、それでも当日、壇上、会場からさまざまな意見が上がったことには感謝である。

参加者は、自治体職員を地域公共人材とみなすときに、地域公共人材の職能をどのようにとらえなおすことができるのかを考える、いいきっかけになったと語られている。

修士論文報告会 —— 研究の成果を披露しました ——

鳥居 良寛 (法学研究科修了)

今年も3月7日(日)に「修士論文報告会」が行われました。NPO・地方行政研究コースでは昨年度より「修士論文報告会」の機会を設けています。これは修了生がそれぞれの修士論文を発表することで、大学院での研究成果を共有しようというものです。当日は、次年度終了の院生をはじめ、早期履修制度を利用した学部生や、次年度のコース入学予定者など、多くの参加者の出席のもと、修士論文を書きあげたまでの苦労や充実感など交えながら、修了生による発表が行われました。まとめとして、大矢野先生、河村先生より、論文の論点についての講評や院生終了後のアドバイスを受け、最後には修了生への贈る言葉をいただきながら、それぞれの研究の成果を共有しました。

本コースは若手院生・NPO・行政・企業など多様なセクターの人々によって構成されています。こうした、様々な職業経験や、職種、職能などの背景を持つ院生が書き上

げた論文は実に多彩で、コース最大の特徴となっています。報告会は終始和やかに進み、論文を執筆し終えた、温かな笑顔に包まれながら盛会のうちに幕を閉じました。



..... 広原教授お疲れさまでした



西原 京春 (元リサーチ・アシスタント)

龍谷大学法学部 広原盛明教授の最終講義と記念パーティーが3月6日(土)に開催されました。講義では「私の人生と研究生活～最終講義に代えて～」をテーマに、広原教授の生い立ちから、約半世紀にわたる教員人生について語っていただきました。

広原教授は、これまで、研究者として強い信念を持ち、常に地域に軸足を置いて、住民と共に歩んでこられました。京都の街を愛し、かつては京都市電撤廃反対運動の先頭に立ってこられました。その柔和な語り口は正義感に溢れ、都市化・近代化にとって最も重要な資源であるという信念のもと、地域社会の中で人々が繋がり、生き生きと活躍できることが、素晴らしい都市づくりの基本である、と主張してこられました。そして広原教授は京都をはじめとし、地域の民主化・近代化の礎となってこられました。

このような広原教授の実直な姿勢は、大学の教育現場でも貫徹され、これまで数多くの優秀な人材を輩出してこられました。その「教え子」たちが記念パーティーにかけつけ、広原教授の「退任」、そして新たな挑戦への出発を祝福しました。

■ 事務局インフォメーション

■ 「先進的地域政策研究」第1回講演会

5/29 (土) 13:30 ~ 15:00

講師：京都府府民生活部府民力推進課 地域力再生担当 参事 梅原 豊氏

テーマ：京都府 / 地域力再生プロジェクトと新しい「地域公共人材」像
場所：21号館 508教室

■ 「地域リーダーシップ研究」第1回講演会

6/12 (土) 13:30 ~ 15:00

講師：兵庫県豊岡市長 中貝 宗治氏

テーマ：兵庫県豊岡市 / コウノトリと共に生きる一環境と経済の共鳴をめざして
場所：紫英館 2F大会議室

■ NPO・地方行政研究コース地域連携協定団体への推薦入試説明会 (協定先談話会)

2010年7月下旬予定 深草キャンパスにて

■ 龍谷大学オープンキャンパス

2010年8月7日(土) 深草キャンパスにて

NPO・地方行政研究コース担当教員が個別相談に応じます

NPO・地方行政研究コース ニュースレター『グローバル通信』通巻17号 2010年5月

発行 / 龍谷大学大学院 NPO・地方行政研究コース
連絡先 / 教育学部 (深草)
TEL : 075-645-7891 FAX : 075-643-5021

H P / http://www.ryukoku.ac.jp/gs_npo/
編集 / 大矢野修、松島泰勝、土山希美枝 (編集補助) 藍澤ゆかり、船越亜里沙、三木俊和
印刷 / 株式会社 田中プリント